



時間と空間を超えた観察記録「みんなの畑日記」 利用アプリ Google Jamboard

栽培活動で行う、植物の成長の様子を観察し、Google Jamboardを使って記録しました。複数学年が在籍する特別支援学級では時間の調整が難しいのですが、Jamboardを使うことで時間にとらわれず、可能な時間に観察し、共同で記録を残していくことができました。自分の以外の子がどんなことを書いているのかを見ることができたり、コメント欄にコメントできたり、人と関わる機会を増やすことにもつながりました。また、学校に来にくい児童も、放課後などを使って取り組むことで、空間を超え、クラスの一員として参加することができています。

<特別支援学級 栽培活動>

ICT活用のポイント

- ・鉛筆で字を書くことに抵抗がある子でも、文字入力なら比較的取り組みやすい。
- ・ローマ字入力にこだわらず、かな入力や音声認識での入力も選択肢として認めることで、目的とする活動に取り組みさせることができる。
- ・付箋機能に名前を入れることで、誰がコメントしたことなのかが分かるようにしておくと、“みんなで”活動しているという意識が高まる。



観察記録の様子





他校とのオンラインでの交流を通してコミュニケーションの力を培う

使用機材 パソコン(Google Meetで接続)・プロジェクター・スピーカー

〈特別支援学級 自立活動〉

加古川市の小学校の特別支援学級と2回オンライン交流を行いました。昨年度の豊岡市の小学校に引き続き2回目のオンライン交流になります。初対面の人に直接会うと緊張して交流しづらい児童も、オンラインでは画面を通してのやりとりになり、受け取る情報が限定されるためか、活発に交流できるように感じました。相手校の児童の様子を確認しながら楽しく発表しあうことができました。

ホワイトボード

【機材の設定例】

相手校の映像

パソコン
(Google Meetで相手校と接続)

ワイヤレス
スピーカー

プロジェクター



ICT活用のポイント

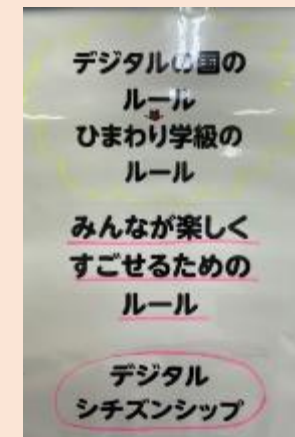
- ・座って落ち着いて交流できるように機材を設置する。
- ・オンラインは映像を配信する形になるので、当日を迎える前に、実際に機材を設置し映像を映した状況で発表の練習を行うと児童も安心して当日へ臨むことができる。
- ・相手校の児童もインターネットを通してつながっている大切な仲間であることを伝える「デジタル・シティズンシップ」の考え方を事前に伝えることによって、相手校により親しみを感じ、相手を配慮した交流をもたせることができる。



🎬 相手校の児童の感想へ「ありがとうございます。」と返答している場面（動画：約4秒）



自分の得意なことを発表しあう。この児童はフラフープを三つ同時に回している。



1回目の交流時、ふざける場面があったので、左写真のようなデジタルシティズンシップの話をしたところ、2回目は上の写真のように相手校へ拍手を送り、静かに発表を聞く姿が見られた。

タブレットを使ったコミュニケーション能力の育成

プログラミングツール Visucuit

Visucuitを使って棒人間を動かし、簡単なダンスを作る。棒人間の動きをマネしたり、友だちの動きを見ることによって、コミュニケーションが生まれると考えた。大型ディスプレイで児童が作ったダンスをみんなで見ることで、自然とコミュニケーションが生まれ、人前でダンスを踊るのが苦手な児童も、棒人間の動きを自分で真似して紹介するなど楽しんで授業をすることができた。

ICT活用のポイント

- ・Visucuitとは、絵を描いて、遊びながらプログラミングできるビジュアルプログラミングツール。
 - ・操作は、画面に直接絵を描き、メガネマークに絵を入れて動きを作る。
- ※事前に練習を行い、使い方に慣れておくことが必要。



<特別支援学級ダンススタジオを作ろう>



授業風景（動画：約15秒）

マルチメディアデージー教科書を用いて、スムーズに読む

アプリ名 デイジーポッド

通級指導教室で、4年生の児童の音読の指導に、マルチメディアデージー教科書を用いました。支援のポイントは3つです。

①漢字にルビがついていて読める。②単語や言葉のまとまりが音声で分かる。③ハイライトで文字を追うことができる。教科書を読むと、速いペースで漢字の読みや、単語・言葉のまとまりが区切れずに読んでしまいがちですが、マルチメディアデージー教科書と合わせて何度か読むことで、適度なスピードで、言葉のまとまりで区切って、読むことができます。マルチメディアデージー教科書と合わせて読む練習を行ってから教科書を読むと同じように読むことができました。

ICT活用のポイント

- ・GIGAスクール構想で導入されたタブレットにデイジーポッドをインストールし、デイジー教科書を使用する場合は、データ容量に注意する必要がある。
- ・必要な教科書の単元のみをインストールし、新しくインストールする際に古いものは消去した。
※機種によって方法が異なる場合があるので、詳細は「エンジョイ・デイジー わたしらしい方法で読む、わかる」で検索し確認してください。
- ・教科書では抵抗感が強い場合は、「デイジー子どもゆめ文庫」で小学生が親しみやすい読み物でマルチメディアデージーを使用すると、読む楽しみが伝わりやすい。

＜小学校4年生 ウナギのなぞを追って＞



音読の様子（動画：約14秒）

自分の言葉にして、記憶する

アプリ名 カメラ

通級指導教室で算数の計算方法や公式など記憶や暗記が必要なものを覚える時間をとります。「授業で聞いて、練習問題をしながら」のように記憶と作業の同時並行ではなく、記憶のみに力を注ぐ時間をとります。その時、記憶する方法も児童それぞれに合わせた記憶方法を一緒に探します。話すのが得意な4年生の児童とは、割り算の筆算の手順を、自分の言葉で説明する動画をカメラ機能で撮影しました。それを見て、手順通りか自己評価をし、手順通りに相手に伝わりやすく説明できるまで練習をしました。最後は、上手に話せた時の達成感を感じられていました。「何度も唱える」、「問題を解いて覚える」以外の方法も使って楽しく覚えることができていたと思います。

<小学校4年生 2けたでわるわり算の筆算>

ICT活用のポイント

- ・話すのが得意でも、撮影は緊張する児童もいる。みんなに見られるんじゃないか、自分の姿を見るのが好きではないなどの理由がある。誰に見せるか（保護者や担任など）細かく説明してから撮影することが必要である。自分の姿を見るのが好きではない場合は、音声のみ録音することもおすすめ。
- ・大切なのは一字一句違わずに言うことではなく、意味や手順が自分なりの言葉で説明できることを意識し、声をかけることが重要である。



目と手の協応

自分の指先が何を触っているかわかりづらい児童に、タブレット端末で指先に触れている映像を、リアルタイムで別のタブレット端末から映し出し、それを見て、作品を作っている。

〈小学部 2 学年 図工〉



ICT活用のポイント

- ・タブレット端末を装置で固定してみやすいところを維持すること。
- ・クラウドビデオ会議システムを授業中接続して行う。

近距離無線通信の活用

近距離無線通信対応のスイッチを使用して、タブレット端末の簡単な操作(朝の会の歌の操作)を行っている。



〈小学部 2 学年 特別活動〉

ICT活用のポイント

- ・近距離無線通信を使用して、押すだけで音楽をかけたり、写真を撮ったりすることができる。
- ・本日の給食もボイスメモに保存しておき、押すだけで発表することができる。

自発的な動きをめざして

昨年から視線入力を始めた児童の2年目の報告になります。
今年度は二者択一の画像を準備して、選択するという課題を行っています。
教師の指定した画像を、学習者が目で追って、その画像を選択することが可能になってきました。

<小学部3学年 自立活動>

ICT活用のポイント

- ・学習者が視線入力しやすい姿勢を作りながら、本人ができたという肯定感を育てながら、客観的データに基づいて評価を行っていくこと。



授業風景（動画：約20秒）